黒部ダムを見学して

北九州市立松ヶ江南小学校　6年　北田咲智

私は、夏休みに家族旅行で黒部ダムへ行きました。立山の室堂からトロリーバスやロープウェイ、ケーブルカーを乗り継いでや。と黒部ダムについたとき、ケーブルカーで怖くてきんちょうしたこともあって私はとてもつかれていました。

しかし、ダムからの放水が見えてきた時、暑くてたまらなかったのにきりがふいてきたように感じて急にすずしくなりました。

放水の上まで来ると、きれいな虹がくっきりと見えて「がんばって来てよかった。」と思いました。

展望広場には、黒部ダムが作られた歴史や工事の様子がパネルやビデオで学べるように

※コピーしてお使いください

なっていました。

それによると、昭和31年、関西地方に十分な電力を送るための黒部川第4水力発電所に使用する水を確保するためにエ事が始まったそうです。（黒部ダムが「くろよんダム」と呼ばれるのはこのためです。）

途中、「破砕帯」という毎秒660リットルもの水と土砂が噴き出す岩ばんもあり、エ事をする人の中には命を落とす人もいたそうです。（レストハウスのうかには、エ事でなくなった人の名前がたくさん書いてありました。）

そうして、昭和38年に513億円のエ費と1000万人の手により黒部ダムは完成し、戦争後の日本の復興を支える壮大なエネルギーを作ったのです。

私は、雪の中での作業や、人がエ事の材料をかついで運んでいる写真を見て、現在のよ

※コピーしてお使いください

うにいろいろな機械がそろっていない時代にどんなに大変な工事だったかがよく分かりました。

また、ずっと昔に作られたのに、現在でも使えるがんじょうなダムであることがすごいと思います。

私は、ダムを作る人たちがきびしい寒さの中で工事をするために食べていたという黒部ダムカレーを食べながら、ダムを作ったみなさんに「お疲れさまでした」という気持ちになりました。

枚数 3/3

※コピーしてお使いください